

令和4年度前期学校評価の結果の考察

■回答日時 令和4年7/1（金）～7/8（金）

■回答数

教職員：19 保護者：162 児童：169

■評価の分野

ア、学校経営に関して イ、学習指導に関して ウ、生徒指導に関して エ、学校の特色・課題に関して

■評価の観点 ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

※プラス評価（そう思う、だいたいそう思う）、マイナス評価（あまりそう思わない、そう思わない）

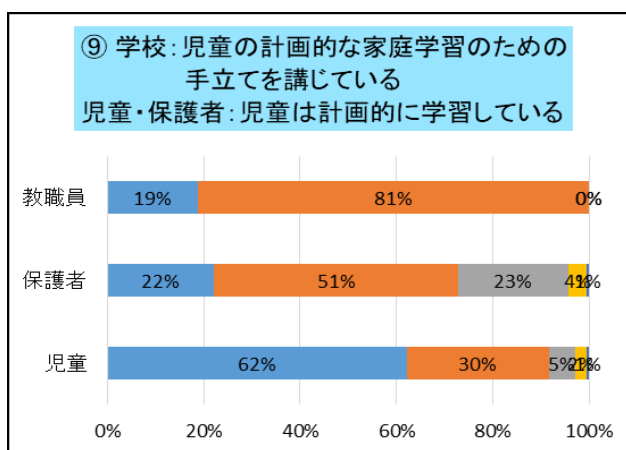
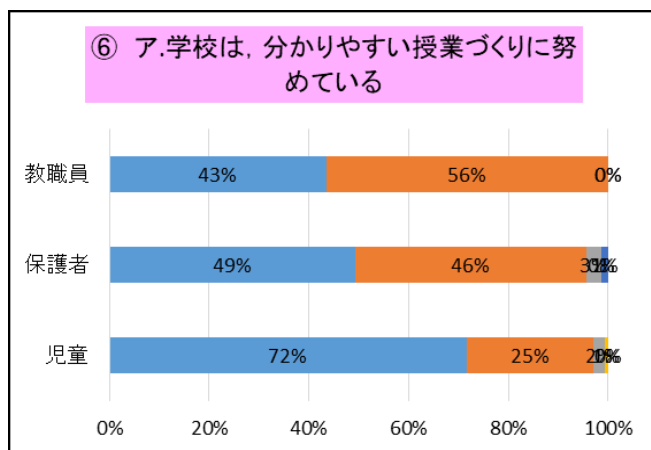
（1）三者の結果の考察

①学校経営について

全ての項目において三者とも評価が高かった。このことから、教職員が日々、楽しい学校生活や学校教育目標実現、家庭への連絡や情報提供、安全な教育環境づくり、地域人材の活用や施設設備の整備に全力で取り組んできたことが、保護者や児童の実感として表れていると考えられる。今後とも「学校生活が楽しい」と感じる児童100%を目指していきたい。学年だよりやホームページ等を通じてコロナ禍でもこまめに児童の活動の様子を伝え、保護者の要望に応え、開かれた学校づくりに努めていきたい。定期的な安全点検で上がった箇所については市当局と財政面を十分話し合いながら、修繕等行っていく。さらに教職員からも地域のボランティアの方々の協力に対する感謝が多く上げられた。今後もボランティアの方々との対話を大切に、地域と共にある開かれた学校でありたい。

②学習指導について

■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない



GIGA スクール構想、新指導要領の三観点に合わせた評価方法の工夫、豊かな心の育成など、今学校に求められることに対し、教職員が真摯に向き合っていることが分かる結果であった。特に、「分かりやすい・楽しい授業への取組」に関しては三者とも高評価だったことは、指導者として光栄な結果であったが、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた保護者、児童も3%いたことは重く受け止めていきたい。

各項目のプラス評価の内訳も「だいたいそう思う」が多かったので、この結果に慢心せず「そう思う」と自信をもって回答していただけるように、さらに教材研究や授業改善に努め、分かる楽しい授業を提供し、学力向上につなげていきたい。

昨年度から校内で研究・実践してきた、ICT 機器やタブレットは、今や日常的に各クラスで活用さ

れ、児童にとっても楽しみな学習になっている。さらに、ICT 機器や話し合い活動を学習場面でより効果的に取り入れていく方法を探り、主体的・対話的で深い学びに迫っていきたい。

一方、「計画的な家庭学習」については、教職員の取組や児童の意識と、保護者の実感とはずれがあり、計画的に学習できていないと感じている保護者も一定数いることがわかった。今後も家庭と連携した家庭学習強化週間や自主学習の取組等を継続していき、児童の家庭学習の習慣化や内容の充実につなげていく必要がある。

③生徒指導について

「あいさつ」の実践状況に関しては、児童と大人（特に教職員）との意識のずれが大きい。学校でのあいさつ指導と教職員が手本を示すことはできているが、児童が「このくらいでよいだろう」と感じているあいさつは、一般的に社会で求められる「いつでも、どこでも、自分から元気に」のあいさつには至っていないと思われる。今後も、「よいあいさつとはどのようなものなのか」を様々な場面で具体的に示しながら、大人が率先してあいさつをしていくことを粘り強く継続していき、あいさつの習慣化をめざしたい。また、児童が意欲的に取り組んでいる児童会のあいさつ運動も有効に活用し、よいあいさつ運動に取り組んでいきたい。

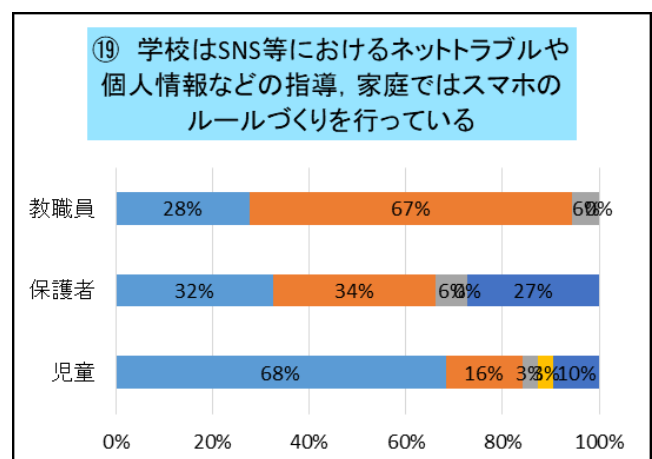
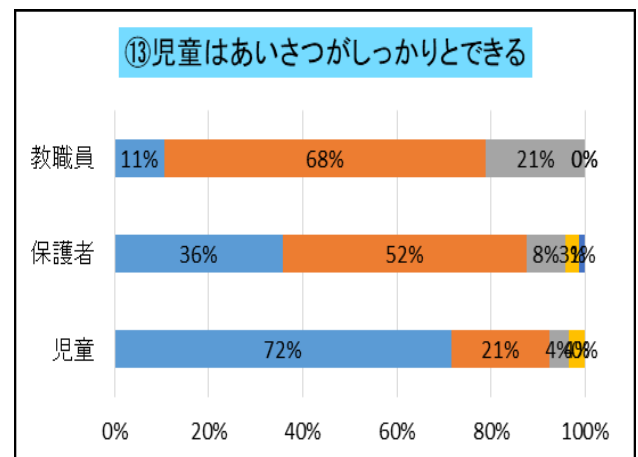
児童や保護者への相談・支援の体制、児童理解の取組、いじめのない楽しい学級づくりについては、教職員は、意識的に取り組み、保護者や児童にも安心していただいていることがうかがわれる。今後とも児童の気になる言動を見逃さず、児童理解や保護者との連携に努め、学校として誠実に対応し、信頼される学校を目指していきたい。

④特色・今日的課題について

「学校行事の充実」、「防災・安全教育」、「新型コロナ対応」については、十分効果を上げていると言える。農業ボランティアを活用した農業体験学習、校外学習や授業参観の工夫した実施、防災訓練や予告なし避難訓練などの実践的防災教育への取組等が、保護者や児童にも評価されていると考えられる。今後も続けていくとともに、児童の登下校に関しても、集団下校や複数下校を指導し、児童見守りボランティアの協力をお願いしながら、引き続き安全確保を図っていきたい。

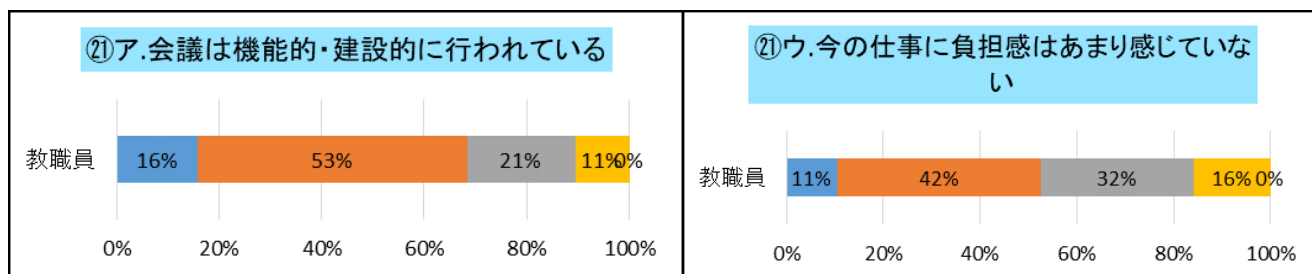
また、新型コロナへの対応については、一学期も熱中症の危険も考慮して、マスクの着用について弾力的な対応を行ったが、これからも時期や感染状況、活動場所の状況、活動・学習内容等十分検討しながら、どのような対策を行うのか適切に判断し、対応していきたい。

しかし、本校でも児童の37%が所持するスマホや携帯電話、SNSの利用などに対しては、いささか心配な結果となった。学校では、今までにも増して情報モラルに対する指導を強化していきたい。また、長時間使用による健康や心理的なデメリット、ネットトラブルの情報などを家庭に提供し、家庭での使い方のルールづくりが進むよう



援していく必要がある。

一方、教職員に関わる問題として、本校においても教職員の働き方改革は喫緊の課題であることが明らかになった。教職員が前日の疲れを翌日に引きずらずに毎日笑顔で児童の前に立つこと、児童と触れ合う時間や教材研究の時間をもち効果的な指導を行うことが一番大切である。そのために、早急に会議の持ち方や業務内容の検討や工夫を行い、職員みんなで知恵を出し合い、小さなことから一つ一つ業務改善につなげていきたい。また、保護者や地域の方々にも御理解・御協力をいただきながら、児童も教職員も生き生きと輝ける学校にしていきたい。



(2) 保護者からのコメントへの回答

※紙面の都合上学校全体にかかわるものに絞らせていただきました。

◇「コロナ生活で学校に行く機会が少ないので、先生、生徒、保護者の顔が今もわからず、子供達の実生活が見えづらい」「ホームページに日々の様子を載せてほしい」などの声をいただきました。今年は新型コロナの状況も見極めながら、方法等を工夫して可能な範囲で授業参観ができるよう取り組んでいます。その際は、感染対策にご協力いただき、ぜひ学校にお越しください。また、学年だよりやホームページ等を通して、子ども達の日々の様子をお伝えしていきたいと思えます。ホームページも随時更新されていますので、時々チェックしてみてください。

◇「1人1人の特性、発達に応じた合理的配慮を希望します。」「子どもには、困ったこと、授業で難しかったところは担任の先生になんでも相談してね。と伝えてあるので、いろいろと忙しいと思いますがよろしくをお願いします。」という声をいただきました。学校では、アンケートのように、どの教職員も児童の悩みや保護者のご相談には誠実に対応していきますので、心配なことがありましたら、いつでもご相談ください。また、お子さんにもそのようにお話しください。

◇コロナ禍での熱中症対策（マスクを外すことや日傘）についてのご要望がありました。本校でも新型コロナに感染する心配から、必要ない時もなかなかマスクを外せない児童も見られます。今後暑い中での運動会の練習等もありますので、国や県で出されているガイドライン等を見ながら、引き続き、暑い季節の屋外や登下校時等には、十分な距離をとる、しゃべらないなどを徹底した上でマスクを外すように声掛けを繰り返し行っていききたいと思います。また、学級指導で熱中症に対し日傘が有効なことも話しました。

◇集団下校については、2学期の始業式の日、地区担当の職員が付き添い、下校指導と安全点検を行いました。週に2回ある集団下校の時を利用して、子供たちの下校の仕方について繰り返し指導をしていきたいと思えます。心配な状況を見かけましたら、子供たちに声をかけていただくと同時に、学校にもお知らせください。

◇抜き打ちの避難訓練について感想をいただきました。これからもいざというとき「自分の命は自分で守れる」児童の育成を目指し、予告なし避難訓練と振り返りなどを通して、実践的防災教育を推進してまいりたいと思えます。